

総合教育科目 3分野科目

人文科学分野

哲学②

講師 横尾 剛

講師 石田 知子

哲学は多様で多層的な主題を持つ分野であるため、限られた回数でそれらを網羅することは難しい。したがって、本講義では、哲学の中でも特に科学哲学と呼ばれる分野に焦点を当て、哲学についての知識を一切前提として要求することなく、その概説を行う。

科学哲学とは、科学の方法論や概念的な基礎に関わる哲学的問題を扱う領域を表している。

まず、導入として、哲学とはどのような学問であるのかということについて、対象、方法、目的、成果、他の学問分野や他の営みとの関係という観点から概説した後、第2～6回で、科学とはどのような営みであるのかということ、形式的・歴史的視点などから哲学的に論じる。

第2回では、科学という営みを、芸術、宗教、占い、常識、習慣などとの対比で、おもに推論と正当化という概念によって特徴づけ、さらに、正当化の方法の違いという観点から、科学というのが形式科学（論理学、数学、理論計算機科学、等々）と経験科学（物理学、化学、生物学、地球惑星科学、等々）とに分類されるということのみる。前者は証明、後者は実験と観察というものを正当化の最終的な方法としている。

第3回では、本講義において特徴づけられた意味での哲学と科学というものを踏まえて、科学哲学と呼ばれる分野の内容に迫っていく。科学というものをその外側からみて、その方法に関する問題を一般的に考察する分野としての科学方法論というものと、科学というものをその内側からみて、個々の科学の分野の概念的な基礎に関する原理上の問題を個別的に考察する分野としての科学基礎論というものとを区別する。

第4・5回では、科学理論の変遷のメカニズム

について論じる。

第6回では、電子や遺伝子などの肉眼で観察できない対象は本当に実在しているのかという問題を考える。

第7～9回では、数学と物理学において考察されている主題に関して、特に、確率、ランダム性、素数、空間、時間という概念に関わる問題について、数学と物理学の間にみられる不思議な類似性と相互作用というものに着目しつつ哲学的な考察を行う。

第10・11回では、生物学における遺伝子、遺伝情報といった概念を哲学的に分析する。

〔第1回〕 導入：哲学とはどのような営みなのか（横尾・石田）

〔第2回〕 科学とはどのような営みなのか：形式科学と経験科学（横尾）

〔第3回〕 科学哲学とは哲学においてどのような特徴をもった分野なのか：科学方法論と科学基礎論（横尾）

〔第4回〕 科学理論はいかに変遷していくのか①（石田）

〔第5回〕 科学理論はいかに変遷していくのか②（石田）

〔第6回〕 科学的実在論について（石田）

〔第7回〕 確率とランダム性に関する哲学／数学／物理学（横尾）

〔第8回〕 素数に関する哲学／数学／物理学（横尾）

〔第9回〕 空間と時間に関する哲学／数学／物理学（横尾）

〔第10回〕 遺伝情報とは何か①（石田）

〔第11回〕 遺伝情報とは何か②（石田）

〔第12回〕 試験および総括（横尾・石田）

テキスト：特になし。プリントを適宜配布する。

参考文献：適宜指定する。

受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。必要な科学的知識については適宜説明する。

成績評価方法

中間レポートと試験との総合評価による。

論理学②

講師 杉本雄太郎

[概要・目的]

この講義では思考、推論や論証が正しいとは一体どういうことなのか、また論理的に正しく推論すること、すなわち「仮説や前提から、正しい方法で結論に到達する」ことについて、記号論理学の立場から解説します。そのために、記号論理学の基本的体系である「命題論理」について取り上げ、主に意味論および証明論という二つの側面から検討します。

[目標]

上記の意味論・証明論という論理学の二つの側面について、真理表による真理値分析および自然演繹体系を用いた証明という二つの方法を使って、推論の正しさを判定できるようになることが目標です。

[講義形態]

基本的には講義形式で行ないますが、実際に練習問題を自分の手で動かして解いていくことにより、上記の二つの方法（真理値分析・自然演繹）を習得して頂きます。

[第1回] 導入—推論とは？ 論理学とは？

[第2回] 日本語文の形式化と形式言語について

[第3回] 命題論理の意味論 1—真理表・真理値分析

[第4回] 命題論理の意味論 2—同値変形／真理値分析による推論の妥当性の判定

[第5回] 命題論理の意味論 3—恒真・矛盾・整合／真理値分析に基づく矛盾と整合性の判定

[第6回] 命題論理の意味論 4—トートロジー、推論の妥当性、命題のあつまりの整合性・矛盾という概念の間の関係／中間テスト

[第7回] 命題論理の証明論 1—推論の形式化／導入規則と除去規則

[第8回] 命題論理の証明論 2—自然演繹の推論規則：連言・否定

[第9回] 命題論理の証明論 3—自然演繹の推論規則：条件法・選言

[第10回] 命題論理の証明論 4—自然演繹の推論規則：矛盾・背理法

[第11回] 命題論理の証明論 5—最小・直観主義・古典論理／自然演繹による矛盾の導出

[第12回] 総括—意味論と証明論の関係 および試験

テキスト：プリントを適宜配布する。

受講上の要望または受講上の前提条件

特別な知識は特に仮定いたしません。

成績評価方法

講義中に行なう中間テスト、講義最終回に行なう試験の成績、および平常点を総合的に判断して評価いたします。

倫理学②

講師 佐藤 真之

近現代の倫理学の代表的な理論を概観しながら、自由、平等、正義など、現在わたしたちの常識のなかに根づいている価値観がどのような理屈によって形作られてきたのかを考えていきます。また、そうした価値観の土台にある思考の型を、社会のありようを眺め、課題を発見するツールとして役立つように議論を深めていきます。

[第1回] イントロダクション

[第2回] 近代の倫理学と私たちの価値観

[第3回] カントの義務論①

[第4回] カントの義務論②

[第5回] 功利主義①

[第6回] 功利主義②

[第7回] ニーチェの思想①

[第8回] ニーチェの思想②

[第9回] 正義論①

[第10回] 正義論②

[第11回] 現代の課題

[第12回] 試験および総括

テキスト：プリントを適宜配布いたします。

参考文献：小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内—理論と課題』（慶應義塾大学

出版会、2006年)

ISBN 978-4-7664-1251-2

成績評価方法

最終日の試験によります。

近代思想史②

講師 篠原 洋治

現代は、フーコーが指摘したように、「労働」を管理するテクノロジーとしての権力が大きく発展し、社会の隅々まで浸透してきた時代であり、他方でドゥルーズとガタリが示したように、「欲望」が市場や科学的言説を媒介に管理・生産されている時代である。こうした時代に位置づけられる現代社会は、われわれ個人の「自由」を抑圧するある種のデストピア（反ユートピア）となっているのではないだろうか。

他方、ヨーロッパの政治・社会思想は、あるべき社会（ユートピア＝非・場所）を描きながら眼前の社会（場所）を批判し、社会改革を目論んできたと言ってよい。

本講義では、ユートピアの観点から近代思想史を再検討し、近代という時代の特殊性を浮き彫りにすると同時に、その諸問題の淵源を考察したい。その際、思索の材料として、デストピアを扱ったSF映画などの抜粋を観ていただく予定である。

〔第1回〕 プラトンと全体主義

〔第2回〕 公共空間というユートピア

〔第3回〕 トマス・モアの『ユートピア』

〔第4回〕 宗教改革における労働観の転換

〔第5回〕 啓蒙のユートピアと労働

〔第6回〕 労働と規律訓練社会

〔第7回〕 福祉国家の誕生と生命権力

〔第8回〕 フーリエのユートピア

〔第9回〕 奢侈批判のユートピア

〔第10回〕 奢侈肯定と経済学的自由主義

〔第11回〕 資本主義社会における欲望と権力

〔第12回〕 試験および総括

テキスト：講義のためのプリントを配布する。

参考文献：ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫、1958年）

ミシェル・フーコー『監獄の誕生』（新潮社、1977年）

野地洋行編著『近代思想のアンビバレンス』（御茶の水書房、1997年）

（ただし出版年は、原著の初版出版年）

受講上の要望または受講上の前提条件

授業に積極的に参加することを期待する。

成績評価方法

出席状況、授業での積極性、最終日の試験により総合評価する。

社会科学分野

政治学②

講師 鷺田 任邦

本講義の目的は、政治社会や民主主義の仕組みについての基礎を学ぶことにある。特に、代議制をめぐる理念と現実の乖離や矛盾、国毎の機能や帰結の違いが生まれる背景や制度の影響について、政治学の基礎的な概念・枠組みや具体的事例に触れながら考察していく。

〔第1回〕 政治学とは何か？

〔第2回〕 民主政と代表

〔第3回〕 選挙制度

〔第4回〕 選挙運動

〔第5回〕 政策過程をめぐる制度

〔第6回〕 代表者の行動

〔第7回〕 有権者の行動

〔第8回〕 民主的アカウンタビリティ

〔第9回〕 選挙競争の歪み

〔第10回〕 非民主制における民主的制度

〔第11回〕 民主制の帰結

〔第12回〕 試験および総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：以下の文献以外については、適宜紹介する。

小林良彰・岡田陽介・鷺田任邦・金兌希『代議制民主主義の比較研究—日米韓3ヶ国における民主主義の実証分析』（慶應義塾大学出版会、2014年）

受講上の要望または受講上の前提条件

特に前提としない。

成績評価方法

最終日の試験による。

経済学②

講師 北條 陽子

本講義は、受講生が経済学の基礎知識を学ぶことを目的としています。経済学には、大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学とがあり、それぞれの入門的な内容を解説します。

- 〔第1回〕 はじめに・市場について
- 〔第2回〕 需要と供給
- 〔第3回〕 需要の価格弾力性
- 〔第4回〕 消費者行動と生産者行動
- 〔第5回〕 市場機構の効率性と限界
- 〔第6回〕 国民経済計算
- 〔第7回〕 物価の変動
- 〔第8回〕 マクロ経済における需要と供給
- 〔第9回〕 財市場－乗数効果
- 〔第10回〕 貨幣市場
- 〔第11回〕 財政政策と金融政策
- 〔第12回〕 総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：伊藤元重『入門 経済学〔第3版〕』（日本評論社、2009年）

ISBN 978-4-535-55585-3

グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編〔第3版〕』（東洋経済新報社、2013年）

ISBN 978-4-492-31437-1

塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』（新世社、2010年）

ISBN 978-4-88384-148-6

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門〔第4版〕』（有斐閣、2011年）

ISBN 978-4-641-12439-4

ポール・クルーグマン他『クルーグマンミクロ経済学』（東洋経済新報社、2007年）

ISBN 978-4-492-31383-1

ポール・クルーグマン他『クルーグマンマクロ経済学』（東洋経済新報社、2009年）

ISBN 978-4-492-31397-8

受講上の要望または受講上の前提条件

特になし

成績評価方法

最終日の試験による

社会学②

文学部教授 鹿又 伸夫

文学部教授 稲葉 昭英

前半では、社会学における社会現象のとらえかたを理解することを目標として、著名な社会学者の研究をとりあげ、かれらが社会現象をどのように説明しようとしたかを解説する。また後半にはとくに家族問題という具体的な対象に視点をあて、社会学の理論を用いてそれらがどのように分析できるかを示す。

- 〔第1回〕 自殺と社会構造
- 〔第2回〕 デュルケムの社会学
- 〔第3回〕 マルクスの社会学：階級闘争と社会変革
- 〔第4回〕 宗教倫理と近代資本主義発展
- 〔第5回〕 ウェーバーの社会学：社会的行為と社会変動
- 〔第6回〕 合理的行為と社会秩序
- 〔第7回〕 家族社会学の基礎概念
- 〔第8回〕 家族はどのように変化したのか
- 〔第9回〕 男の結婚・女の結婚
- 〔第10回〕 ひとり親家族の問題
- 〔第11回〕 児童虐待とドメスティック・バイオレンス
- 〔第12回〕 総括

テキスト：指定しない。

参考文献：小林淳一・木村邦博編『考える社会学』（ミネルヴァ書房、1991年）

ISBN 978-4-623-02126-0

庄司洋子編『親密性の福祉社会学』（東京大学出版会、2013年）

ISBN 978-4-13-054139-8

成績評価方法

出席および最終日の試験による

地理学②

講師 渡邊 圭一

地理学とは、地表上の空間における人間の諸活動を対象とする学問である。本講義は、都市に焦

点を当てて、その歴史的推移と今日の現状、諸問題などについて学ぶことを目的としている。

18世紀末の産業革命以降、産業構造が第一次産業から第二次産業、さらにはサービス業に代表される第三次産業主体へと変容する中で、一貫して人口の都市への集中が進んでいる。特に、開発途上国では経済成長を通じて都市化が急速に進み、世界の総人口に占める都市人口の割合が農村人口のそれを上回るようになった。わが国でも、人口の過半数は東京、大阪、名古屋の三大都市圏に集中しており、特に東京大都市圏への一極集中が顕著である。近年では、一方で都心部の再開発と人口の都心回帰が進むとともに、他方でニュータウンに代表される急速に拡大した「郊外」は、高齢化により「オールドタウン化」に直面している。

本講義では、以下のトピックスについて、日本や世界の諸都市を事例として、都市地理学の見方、考え方を解説する。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 都市の概念

〔第3回〕 都市と地図

〔第4回〕 都市と自然環境

〔第5回〕 日本の都市システム

〔第6回〕 都市の機能分類

〔第7回〕 都市の産業・職業構造

〔第8回〕 工業都市の盛衰

〔第9回〕 大都市圏の形成と発展

〔第10回〕 郊外住宅地の系譜

〔第11回〕 都心部の開発と再開発

〔第12回〕 総括

テキスト：高橋伸夫・村山祐司・菅野峰明・伊藤悟『新しい都市地理学』（東洋書林、1997年）

参考文献：杉浦章介『都市経済論』（岩波書店、2003年）
杉浦章介・松原彰子・武山政直・高木勇夫『人文地理学』（通信テキスト、2005年）

受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

成績評価方法

出席状況および期末レポートによる総合評価。

自然科学分野

統計学②

講師 中野 諭

この講義では経済や日常生活における具体的な話題を取り上げながら、それらと関連するデータの読み取り方など統計学の基礎を習得することを目標としている。講義内容は以下を予定している。

〔第1回〕 データの整理

〔第2回〕 確率

〔第3回〕 確率変数とその分布

〔第4回〕 基本的な分布

〔第5回〕 標本分布（1）

〔第6回〕 標本分布（2）

〔第7回〕 母数の推定（1）

〔第8回〕 母数の推定（2）

〔第9回〕 仮説検定（1）

〔第10回〕 仮説検定（2）

〔第11回〕 線形関係の推定

〔第12回〕 総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

森棟公夫『統計学入門〔第2版〕』（新世社、2000年）

ISBN 978-4-88384-017-5

参考文献：早見均・新保一成『基礎からの統計学』（培風館、2012年）

ISBN 978-4-563010096

受講上の要望または受講上の前提条件

統計学の初学者を対象とするが、短期間で数多くの内容を取り上げるので、統計学レポートの既習者が望ましい。また、講義のなかで実際に練習問題を解く時間を設ける予定なので、ルートが計算できる電卓を用意すること。

成績評価方法

基本的には最終回の試験で成績評価を行うが、毎回講義の際に解く練習問題も加点対象となる。